



COVID-19 感染拡大防止のための 令和3年度活動報告No.15

緊急事態宣言が明け、結核予防の啓発活動の再開に力を入れ始めています。10月にはWHO（世界保健機関）が世界における2020年の結核統計を発表し、コロナの影響による死亡者数の増加に警鐘を鳴らし、さらなる結核対策の重要性を強調しました。アジア・世界の結核をなくさなければ、日本の結核はなくならないという信念をもとに、地域に根差した婦人会活動を紹介します。

< 沖縄県結核予防婦人連絡協議会 >

10月27日（水）に、與那覇信子会長、波平道子副会長、諸見里清江事務局長は、沖縄県知事表敬訪問を実施しました。緊急事態宣言が明け、マスク着用、検温、手指消毒など万全の体制で、沖縄県保健医療部長の大城玲子氏を表敬訪問しました。医療技監兼保健衛生統括監の糸数公氏、ワクチン接種戦略課長の城間敦氏にも同席いただき、複十字シール運動の意義を説明し、シールを贈呈して、協力を仰ぎました（写真）。



写真 左から城間課長、與那覇会長、大城部長、結核予防会評議員会会長森先生、小林事業部長、糸数技監、波平副会長で、記念撮影（幟は新調しました！）

また、緊急事態宣言下ではありましたが、8月には、県内の市町村・保健所・病院・警察署・郵便局・企業やマスコミなど250カ所以上にシールやリーフレット、ポスター等を一斉に送付し、結核予防週間への啓発を依頼しました。今年のシールも好評で、追加発送希望があり、うれしい悲鳴をあげました。

現在は、複十字シール募金への協力依頼のため、電話によるローラー作戦を地道に行い、結核対策の重要性を伝えています。